

酢液等の使用例を抜粋しました。

ただし農薬ではありませんので参考程度にご覧下さい。 福井炭やきの会

《木酢液について》

木酢液の病害虫に対する使用例

のうけん5月号より/福井炭やきの会 第2回総会にて パイテック 株式会社 発行

作物名	摘要病害虫名および整理効果	使用方 法
ナス	ハダニ、オンシツコナジラミ、スリップ、アブラムシ、ミナミアザミウマ、ウドンコ病 黒枯病、灰色カビ病	300倍液を1～2週間ごとに葉面散布。
	青枯病	発生時、50倍液を2ℓ株元灌注。
	初期生育促進	定植2～3日前、200倍液 株元灌注。
ピーマン	バイラス	200倍液 葉面散布。
	急性萎縮病	100～200倍液 株元灌注。
	着果促進	定植時、200倍液 葉面散布。
	酸味低下	着果時、500倍液 葉面散布。
キュウリ	ウドンコ病	予防・200倍液。発生時・100倍液 葉面散布。
	灰色カビ病、菌核病 ハダニ、尻太果抑制	300倍液 葉面散布。
	立枯病、白絹病、菌核病	300倍液 株元灌注。
	ネコブ線虫	荒起し後、50倍液を坪当たり2ℓ 土壌灌注。
メロン	ウドンコ病、ハダニ、スリップ	予防・200倍液。発生時・100倍液 葉面散布。
	ツル割病	患部に原液塗布。または200倍液 株元灌注。
	連作障害、ネマトーダ	定植前50倍液 土壌灌注。
	健苗育成	育苗時300倍液 葉面散布。
イチゴ	ウドンコ病、ハダニ	予防・400倍液。発生時・200倍液 葉面散布。
	芽セン虫	育苗時100～200倍液 葉面散布。
カボチャ	ウドンコ病	予防・200倍液。発生時・100倍液 葉面散布。
	一般害虫、健康	200～300倍液 葉面散布。
枝豆	ハダニ	400倍液を1週間に一度 葉面散布。
	活着促進	定苗時300倍液 葉面散布。
白菜 キャベツ	連作障害、根コブ病	木酢入り堆肥または木酢入り木炭を定植前に土壌混入。
ネギ、ニラ	多くの害虫、軟弱徒長防止	200倍液 葉面散布。
軟弱野菜	ハダニ、アブラムシ 耐暑、耐寒性、葉色の向上	500倍液を10日毎に葉面散布。
稲	健苗育成 ウンカ、イマグロヨコバエ	育苗時500倍液を葉面散布。 100倍液を葉面散布。
タバコ	病害抵抗性向上、アオムシ	300倍液を反当たり300ℓ、6ヶ月間に2回 葉面散布。
ハウスブドウ	ウドンコ病、コクト病その他の病害減少 ダニ	500倍液を開花前3回、開花後10日おきに3回。 着色時に2回 葉面散布。
リンゴ	腐ラン病、モンパ病 モニリア病、黒星病、ハダニ、アブラムシ	患部に30倍液塗布。 200倍液を反当たり400ℓ 葉面散布。
キク	白サビ病	300倍液 (???)
茶	滅農薬	木酢液500倍液と所定濃度8割を混合散布。回を重ねるうちに農薬使用量が半分以下に。
家畜の糞尿	脱臭効果	300倍液を散布。
堆肥	発酵促進	400倍液を散布。

・高温期やハウスの中では薬を生じ易いため、目安のうすい方の濃度で用いる。

・立枯病/播種1週間位前に1㎡当り木酢液の10倍液を7～8ℓ散布。

立枯病の防除の外に、その後の生育に良い影響を与え、施肥を行ったと同様な現象を呈する。

酢液等の使用例を抜粋しました。

ただし農薬ではありませんので参考程度にご覧下さい。 福井炭やきの会

《木酢液について》

木酢液の病害虫に対する使用例 改定新版「日曜炭やき師入門」より

品 目	病 害 虫 名	使 用 法
ト マ ト	センチュウ	50倍液を株元へ灌注
ト マ ト	ウイルス	200倍液を1週間おきに散布
ト マ ト	根腐れ病J3	木酢液+バンの耳+モミガラくん灰の植穴施用
トマト、キュウリ	ネコブセンチュウ	100~200倍液の株元灌注
キュウリ	うどんこ病、べと病	ニンニク入り木酢液200倍液の葉面散布
キュウリ	オンシツコナジラミ	ドクダミ入り " "
キュウリ、ナス	灰色かび病、うどんこ病	活性炭+300倍液の葉面散布
ナ ス	青枯病	有機液肥にまぜて月1~2回灌注
ナ ス	ダニ	ドクダミ入りの木酢液
ピーマン	センチュウ	1500~2000倍液を灌水がわり3回散布
メ ロ ン	ネコブセンチュウ	木酢液+粉炭を作付前に施用
メ ロ ン	アブラムシ	木酢液+粉炭を忌避効果
イ チ ゴ	メセンチュウ	100~200倍液の散布
ハクサイ、キャベツ	根こぶ病	木酢液入り半生堆肥施用
キャベツ	べと病、コナガ	農薬+木酢液200~300倍液を10~15日間隔で散布
キャベツ、ハクサイ	軟腐病、灰色かび病	200倍液を5日おきに3回散布
ダイコン軟弱葉もの	菌核病、立枯病	キトサン+木酢液の200倍液を土の表面へ散布
サツマイモ	ネコブセンチュウ	100~200倍液20ℓ+硫酸カリ10~20gの株元灌注
ビ ー ト	立枯病	20倍液の土壌灌注
コムギ、オオムギ	縞萎縮病	4~8倍液の散布で不活性化
リ ン ゴ	腐らん病	50倍液を1週間おきに2回散布
"	"	ペースト塗布
ブ ド ウ	うどんこ病、ダニ	50倍液の散布
ナ シ	紋羽病	根を掘り上げて灌注
キ ク	白さび病	200㎡に約150ℓを施用
針葉樹苗 (スギ、ヒノキ、アケボノ、カラマツ)	立枯病	原液8ℓ/㎡処理 播種1週間前に10倍液を7~8ℓ/㎡散布する
樹木、観葉植物	カイガラムシ	200倍液を2~3散布

葉面へ施す場合の目安

鬼無里森組 木酢液資料より

作物の葉面に施すことにより、活力を与えます。

種類別	希 釈 目 安	作 物 名
そさい	300倍液	キュウリ、ナス、ネギ、スイカ
"	500倍液	ホウレンソウ、小松菜
果 樹	200倍液	栗、みかん
"	500倍液	りんご、梨、モモ等
花 木	200倍液	ツツジ、サツキ、シャクナゲ
草 花	300倍液	キク類、エビネ
芝 類	200倍液	野芝、コウライ芝、ヒメコウライ芝、稲
"	300倍液	ケンタッキーラブグラス、ペントグラス

酢液等の使用例を抜粋しました。  
ただし農薬ではありませんので参考程度にご覧下さい。 福井炭やきの会

《木酢液について》

## 木炭・木酢液の使用例

●鈴木 政太 氏（福井市中角）にみる木酢液利用の有機農薬

福井炭やきの会会報「福井の炭」より

作目等	使用目的	使用した木炭・木酢液の品質等	使用方法とその時期	効果の内容等
トマト	青枯病の防除	木炭粉 池田町産と岩手県 の木酢液で広葉樹 から採取、6ヶ月 静置精製	☆植付時、植え溝に5a当り240gを施用。 植付前の土壌消毒に25倍液を5a当たり 1000ℓを良質の堆肥と共に施用。 ☆週1回有機肥料に混ぜ500倍液を5a当 たり2000ℓ施用。栽培期間中の2ヶ月 間に8回施用。	☆通常7月上旬に青枯病が発生するが、 7月下旬まで発生はみられず、その 後も発生は少なかった。
キュウリ	うどん粉病の 防除、アブラ ムシとコナガ の防除	池田町産と岩手県 産の木酢液で広葉 樹から採取、6ヶ 月静置精製	☆週1回葉面散布。木酢液にドクダミを混入。 予防には200倍液、発病後は100倍液 を散布。	☆うどん粉病は発生しない。 キュウリの節間が短く、葉が厚くて 小さく全体的に縮まった感じ戸なる。 ☆アブラムシ、コナガの防除効果はみ られず。
ブロッコ リー	減農薬	"	☆10月に1回、農薬に木酢液を混入して使 用。	☆通常2000倍液の農薬が必要である が、木酢液を混入して使用すると 4000倍から5000倍で同じ効 果が得られる。
堆肥	堆肥の早期 熟成 発酵時の 消臭	"	☆堆肥積込時に25倍液を500ℓ散布。 ☆堆肥の切り返しに25倍液を500ℓ散布。	☆通常木質堆肥の熟成には半年から1 年必要であるが、木酢液を使用した 場合は3～4ヶ月で完熟。 ☆発酵時の悪臭は激減。

・作物に直接かける葉面散布

キュウリ、トマト、ホウレンソウなどの葉に動噴機で木酢液を直接かける。

キュウリ：木酢液を施用すると葉が厚くなって、病気や虫に強くなるように思う。

・木酢液は単独でつかうよりもドクダミやニンニクなどを混ぜて散布すると、木酢液だけを施用するより効果が高い。

ドクダミの混ぜ方／2ℓ(20ℓ?)位の容器に生のドクダミを出来るだけ多く入れ、この中に木酢液を入れる。約1週間位で発酵し、  
甘酸っぱい臭いがしてくるので、この臭いがしてきたら使用する。

散布回数は1週間に1度位。2～3日おきに散布すると植物自身が弱ってしまう。

●植物の地上部に散布する場合

水稲や常緑植物などのように葉が丈夫な植物は 200～400倍

一般の植物には 400～800倍

苗床や軟弱な植物は 500～1000倍

を目安に散布する。しかし、高温期やハウスの中では薬害

を生じ易いため、目安の薄い方の濃度で用いる。花は薬害や薬斑を生じ易いため、蕾の時期に用いる。

地上部の散布に用いる木酢液は

薬害を避けるため殺菌作用のある濃度より薄い濃度で使用する。このため病原菌に対する直接的な殺菌作用は認められず、防除効果の作用機構は病原菌の生育抑制、植物の抵抗性誘導、葉面微生物の活性化などによるものと考えられる。＝治療効果はほとんど期待できず予防効果が主体となるので、散布は病害の発生前に予防的に行う。

ただ、各種植物の苗立枯れ病、うどんこ病などの病害に対しては若干の治療効果が認められる。

害虫に対しては殺虫効果は認められず、忌避効果を利用する。